



編集後記

- 前回の「人間福祉研究」第15号より、電子ジャーナルでの発行となりました。今回は2回目の電子ジャーナルでの発行となります。広島文教女子大学人間福祉学会のホームページより閲覧いただけます。ホームページ及び本紀要の存在について、是非多くの方々にお報せいただきますようお願いいたします。
- 本誌を発行できるのは、偏に多岐にわたる学会の活動をお手伝いいただく会員の皆様と投稿者の皆様のおかげです。今回もご投稿をいただき、ありがとうございました。学会のイベントに参加していただいた皆様にも心より感謝いたします。相変わらず年度末ギリギリでの発行となっておりますが、変わらず動きの遅い編集委員にお付き合いいただいた投稿者の皆様、ご迷惑をおかけし申し訳ありません。
- 人間福祉学会では、保育所・介護老人保健施設・障害者支援施設・病院で活躍している1.2年目の卒業生4名にご登壇いただき、現在従事している仕事の内容や仕事のやりがいや就職活動や国家試験対策など大学生活を送るうえでのメッセージをいただきました。一つひとつの経験を学びとし、日々成長しながら働いている姿が思い浮かぶようでした。参加した在校生には、職業モデルとなり、3年以上勤務している卒業生からは、初心にかえることの大切さなどさまざまな気づきがあったように思います。
- 今年度の人間福祉学会では、中村和彦先生に講評していただきました。先生に久しぶりにお会いでき、先生の変わず、あつい福祉への想いを感じることができました。ありがとうございました。
- 人間福祉学会島根ブロックでは、今年度で3回目となります。今回は雲南広域連合の共催で『地元の将来を考えるフォーラム Ver.ふくし「どげすーの？ in雲南2017」』を開催しました。これからの福祉を考える大変良い機会になりました。卒業生2名からも、伝えたい福祉の魅力と題し、仕事のやりがいなどについて語っていただきました。今後、皆さんと一緒に福祉を盛り上げていければと思います。また、次回開催に向けた準備も行っております。人間福祉学会島根ブロックの今後の活動の様子についても、本紀要を通じて引き続きご報告できればと思っています。
- 今後も、人間福祉学会が在學生と卒業生、教員の情報交換および交流の場として、互いに刺激を与え、成長し合える場であるのと同様に、学会誌上における互いの情報交換や交流、切磋琢磨を進めていきたいと考えております。皆様に無理なお願いをすることもありませんが、変わらずご協力いただきますようお願いいたします。

広島文教女子大学 人間福祉学会

『人間福祉研究』第16号編集委員（溝渕 淳 太原 牧絵）